アホウドリ保全活動と山階鳥研のかかわり

2024年7月8日作成

西暦	和暦	月	主なできごと	観察個体数	鳥島推定個体数	時代区分
1887～1902年	明治20～35年		鳥島で玉置半右衛門アホウドリ羽毛採取事業を行いアホウドリ大量殺りく			第1期　大量殺りくの時代
1902年	明治35年	8月	**鳥島噴火**、玉置村民全員死亡			
1903年	明治36年		羽毛採取事業再開			
1922年	大正11年		採算が取れず羽毛採取事業終了			
1930年	昭和5年	2月	**山階芳麿**、鳥島調査、アホウドリ2000羽を認める	2000羽		
1932年	昭和7年	4月	**山階鳥類研究所山田信夫調査**、30羽に標識			
1933年	昭和8年	4月	**山階鳥類研究所山田信夫、日和三徳氏調査**、22羽に標識、8月鳥島が禁猟区に指定			
1939年	昭和14年		**山階鳥類研究所山田信夫調査**、成鳥50羽確認	50羽		
		8月	**鳥島噴火**、奥山村民は船に避難し無事			
1944～1945年	昭和19～20年		日本海軍部隊鳥島駐留			
1947年	昭和22年	6月	鳥島気象観測所設置			
1949年	昭和24年	4月	**オースチン博士によりアホウドリ絶滅宣言**			
1951年	昭和26年	1月	**鳥島測候所のスタッフによりアホウドリ再発見**			第2期　再発見と保全の始まり
1958年	昭和33年		アホウドリが国の天然記念物に指定	14-15羽		
1962年	昭和37年	4月	アホウドリが国の特別天然記念物に指定、**山階鳥類研究所吉井・浦本標識調査実施　ヒナ10羽、亜成鳥1羽**			
1963年	昭和38年	4月	山階鳥類研究所高野、標識調査実施　ヒナ10羽			
1964年	昭和39年		山階鳥類研究所浦本、標識調査実施　ヒナ11羽			
1965年	昭和40年	4月	山階鳥類研究所蓮尾、標識調査実施　ヒナ11羽			
1960年	昭和35年	1月26日	鳥島測候所員、アホウドリ成鳥23～25羽、ヒナ4～6羽、卵2を見る。国際保護鳥指定	23-25羽		
1966年	昭和41年	4月	**山階芳麿・吉井正、鳥島を米軍飛行機で調査、アホウドリ20～23羽を確認**			
1971年	昭和46年		尖閣諸島南小島でもアホウドリ再発見			
1973年	昭和48年	4月	イギリスの鳥類研究者ティッケルと山階鳥類研究所吉井正が鳥島で24羽の巣立ちヒナ確認	25羽		第3期　積極的な保全の時代
1976年	昭和51年		長谷川博が鳥島でアホウドリの調査を開始	71羽（長谷川）		
1981年～	昭和56年～		環境庁（当時）と東京都による、鳥島燕崎繁殖地へのハチジョウススキの移植や防砂工事	140羽(長谷川)		
1991年	平成3年	11月	第1次山階鳥類研究所調査、燕崎営巣地でデコイ設置の予備実験	232羽(長谷川)		
1992年	平成4年	4月	**第2次山階鳥類研究所鳥島初寝崎にデコイを設置**。デコイ作戦開始。第二の繁殖地形成を目指す		500羽	
1996年	平成8年	6月	**第14次山階鳥類研究所調査、初寝崎ヒナ1羽巣立ち。**1995年秋に初寝崎での1卵の産卵・誕生がデコイ作戦開始後初めて確認	170つがい		
2000年	平成12年		アホウドリがアメリカ合衆国で絶滅危惧種に指定。アホウドリ回復計画の策定が義務づけられる		1300羽	
2002年	平成14年	8月	**鳥島小噴火、繁殖地に被害なし**			
2005年	平成17年	5月	**第52次山階鳥類研究所調査、ヒナ4羽巣立ち**			
			小笠原諸島の聟島（むこじま）列島で第三の繁殖地を形成させるプロジェクトを行うこと決定			
		10月	アホウドリ回復計画草案が完成			
2006年	平成18年	3月～7月	ハワイ諸島のカウアイ島でコアホウドリのヒナの飼育実験			
		5月	**第56次山階鳥類研究所調査、鳥島初寝崎でのヒナ巣立ちが13羽になる。**デコイを撤去。デコイ作戦終了			
2007年	平成19年	3月～6月	小笠原諸島でクロアシアホウドリの飼育実験および誘引装置設置開始		1800羽	
		9月	環境省の「野生生物保護対策検討会アホウドリ保護増殖分科会」で移送と人工飼育が承認			
2008年	平成20年	9月	アホウドリ回復計画完成		2300羽	
2008～2012年	平成20～24年	2月～5月	**ヒナを鳥島から聟島へ移送して人工飼育（計70羽）。2012年5月までに69羽が巣立つ**			
2012年	平成24年	10月	聟島で東京都小笠原支庁委託のモニタリング調査を開始			
2014年	平成26年	4月	**小笠原諸島媒島でヒナ確認**（人工飼育個体の子であることが後日判明）		3400羽	
2015年	平成27年	1～3月	小笠原諸島媒島で1卵確認（孵化せず）			
		2～3月	第74次山階鳥類研究所調査、**初寝崎のヒナ151羽を確認**			
2016年	平成28年	3月	**人工飼育個体が小笠原諸島聟島で繁殖初成功**。嫁島でヒナ確認（親鳥未確認）		4000羽	
		2～3月	鳥島全体でヒナ468羽を確認			
2017～2020年	平成29～令和2年		**人工飼育個体が小笠原諸島聟島で繁殖成功。累計5羽巣立ち**			
2020年	令和2年	11月	**アホウドリに2種が含まれることが判明**（Eda *et al.* 2020）			
2021年	令和3年	2～3月	聟島での繁殖成功なし。鳥島でヒナ784羽（初寝崎395 燕崎306 子持山83）を確認			
2022年	令和4年	2～3月	**聟島で2羽のヒナが誕生、うち1羽は第三世代。**鳥島の推定個体数は7,000羽越え		7,000羽	
2023年	令和5年	2～3月	聟島で2羽のヒナが誕生。**鳥島ヒナの数が初めて1,000羽越え**			
2024年	令和6年	2～3月	聟島で3羽のヒナが誕生。鳥島では 1,173羽のヒナを確認		8,600羽以上	

公益財団法人山階鳥類研究所
「アホウドリ 復活への展望」